

<p><b>奈良市</b></p> <p><b>手をつなぐ親の会だより</b></p>	NO 392	令和5年4月28日(金)
	発行	奈良市手をつなぐ親の会
	会長	小西英玄
	所在地	〒631-0801 奈良市左京 5-3-1 奈良市総合福祉センター内
	Tel 0742-71-0770	<a href="http://naraoyanokaiinfo/">http://naraoyanokaiinfo/</a>



## 奈良市手をつなぐ親の会は還暦を迎えました

「親の会」活動は、福祉施策に「疑問を持つ」ことから始まります。

その疑問は「誰のため」「何のため」と考えたとき、「障害をもつ我が子たちの為」であれば、何故？に繋がります。そんな中で出た課題の解決はどうしますか？「国・県・市」に任せておけば大丈夫で済ませますか？

今、私たちができることを一緒に考えませんか？

私たちが今まで充分に対応してこなかった宿題が今、障がい者の生活に大きく押し掛かってきています。私たちでは完結は不可能です。でも、多くの方と連携をとり進めていくことで可能にすることが出来ます。

福祉の3大要素「人・金・物」 私たちには「人と金」はありません。しかし、永年の経験という「物」があります。誰にも勝る「財産」です。でも、使い方を間違えれば、ただの「苦労話」にすぎないのです。さらに進めば他人を受け入れない「孤立主義」になってしまいます。

当事者は福祉の専門家ではありません。でも、福祉の実践家です。障がい児者を数十年育ててきた「経験」という財産もっています。これほどなたにも勝る「財産」です。

福祉の資格を習得した施設職員、福祉を長く関わってきた施設職員にも勝る障害者福祉のプロです。担当を分業で障害者支援を行っている施設とは違い、一人で施設職員のすべての役割を果たしているマルチスタッフがお母さんです。

その負担を少しでも軽減するため私たちに何が出来るかを考え実践するのが、令和5年度の包括的事業計画です。我が子の為だけではなく、親の会会員の為だけでもなく、3000名奈良市の知的障害者の為に、私たちが行動を起こさなければならぬと感じています。

そして、政策提言が出来る組織であってほしいです。皆さまのキャリアならできると思います。

当事者団体の親の会と施設・事業所とのコラボレーションで。

我々には、残された時間の余裕はありません。親の高齢化と本人の老齢化が迫っています。

突然の別れが訪れる可能性を秘めています。すべきことが、私たちの目の前に揃っています。待っています。「何とかしてください」と福祉が訴えています。

私たちが動かなければ、誰も動きません。しかし、私たちが動けば、ムーブメントとして、協同作業に繋がります。誰もが困っているから。私たちが目指した福祉を、次世代につなぐためにも。

60周年にあたり、奈良市手をつなぐ親の会では、案内リーフレットを作成し、関係の皆様にご配布する予定です。